



## 同期の桜

—かけがえのない仲間

越智祐二（高・40）

私は、昭和最後の卒業生で高校40回卒越智祐二と申します。

私は高校時代3年間ラグビー部に所属しており、勉強そっちのけで部活動にあけくれておりました。私は中学生時代バスケット部に入っておりましたが、身長が高い方ではなく、バスケットでは高校の部活に入ってもレギュラーがとれないだろうと思い、何の部活に入ろうかと考えていました。そもそも何か部活に、しかも運動系の部活に入らと思っていたので、色々考えた挙げ句、当時TVで「スクールウォーズ」と言う高校のラグビー部を題材にしたドラマが人気を博していたこともあり、なんなくかっこいいなという安易な気持ちでラグビー部に入部したのです。しかしそれは間違いでした。1年生の入部者は初め10人程度でしたが、それが1ヶ月、2ヶ月と過ぎていくうちに1人辞め2人辞めと最後にはなんと4人になってしまったのです。これは、当時の学生生活には大変な事でした。1年生が雑用を全てやっていたのですが、例えば、雨が降るとボールが当然濡れます。今のラグビーボールのように合成皮革ではなく、当時は皮製のボールだったので、雨水をおもいっきり吸い込んだボールは鉛のボールのように重たくなるのです。そのボールを1人2~3個持ち帰り、ひたすらストーブの前に置き乾かすのです。冬の間はまだいいのですが、夏になるともう完全にサウナ状態です。汗をかきながら必死に乾かしたのを覚えています。そしてその乾かしたボールを次の日に部室に持って行き、先輩達による重量チェックを受けます。ボールが乾ききらずに少しでも重いと、それはもう、今でも思い出すと身の毛もよだつ「取って來い」というしぐさ、いや間違いました指導が待っているのです。先輩が遠くにボールを蹴り、それを1年生全員が全力で取りに行き、パスを回しながら先輩の所まで持って行くこの作

業を永遠と繰り返すのです。大体1人が2人倒れるまで続きました。しかし、今となってはいい思い出の一つです。そのような厳しい指導の中にも、優しさや思いやりの心があり、部活を辞めずに続けたのも4人となった仲間の友情と先輩方の指導があったからだと思います。そこで先輩後輩のいわゆる縦の関係というものを、身を持って感じ取ることができた様に思います。

入学時の応援指導、これは私にとって強烈な印象でした。1年生全員が体育館に呼ばれ、目を瞑つて正座をし、応援団の先輩から嘉穂高校魂を指導していただくのですが、応援団の先輩の格好ときたら、ボロボロのジャージに学生ズボン、髪をはやして頭は丸坊主、中学卒業したての私には強烈すぎました。毎日体育館に呼ばれ30分~1時間の正座、もう苦痛で苦痛で、どうやったら足が痺れず済むか、どうすれば早く終わるのだろうかとか、そんな事ばかり考えていたように思います。しかし、その応援指導のおかげで私の心の中に深く嘉穂魂が刻まれ、今でも同期と肩を組んで校歌を歌えるのです。それらの体験が今の私を作ってくれているような気がいたします。

私は大学卒業後、地場の銀行に就職しまして、7年間主に営業を担当しておりました。銀行では飯塚支店と田川支店に勤務しました。地元ということもあり、嘉穂高校の先輩方に大変かわいがっていただきました。外回りの営業出始めの頃、ある取引先を訪問したところ、その会社の社長に呼び止められました。「きみの地元はどこかね」と尋ねられましたので「飯塚出身です」とお答えしますと、高校の話題になり、社長が母校の大先輩であることを知りました。それからというもの、公私共々お世話をになり、色々な方を紹介して頂き、仕事での成果を上げる事ができました。嘉穂高校のつながりを感じ、感謝の想いを感じると同時に

後輩達にこのつながりを伝えていかなければならぬと強く感じました。

しかし、銀行業務になんとなく違和感を覚え、一念発起で退職し、今の仕事である中古車販売業に身をおきました。なにもかもが初めての経験で無我夢中で仕事をしたのを覚えています。今までの銀行業務とはまったく畕違いの車の販売業務、まさに五里霧中でした。そんななか、高校の同級生が「お前が車屋を始めたのなら、お前から車を買わないかんやんか」と言って、あれこれ注文もつけず、私が薦めた車を買ってくれました。本当に嬉しかった。この1台が、この仕事を続けて行く上で、今でも大きな原動力になっているのであります。

その後、何年かたったある日、高校の同級生の訃報の連絡が入り、信じられない思いで葬儀に参列しました。そこには、やはり何人かの同級生が参列しており、その夜、故人を偲んでお酒を飲み、高校当時の思い出話を、集まった同級生で泣きながら熱く語ったのを覚えています。今思えば、高校卒業以来10年以上も会ってなかった友人達と連絡を取り合い、たまにお酒を飲んだりと交遊を深めていったのは亡くなった友人の葬儀を境にだったと思います。それ以来、今までの交流のなかつ

た同級生とも連絡を取り合うようになり、仕事がうまくいかなかつたり落ち込んでいる時など、励ましてもらったり、同級生の頑張っている姿を見て勇気をもらったりと改めて同級生のありがたさを実感しました。天国へ行った友人が我々同級生との絆を深めてくれたような気がします。

私は、いろんな分野で活躍している高40回の同級生を誇りに思っております。卒業して25年、今でもこうして付き合えるのも、一緒にお酒を飲んで熱く語れるのも素晴らしい同級生がいるからです。これからもこの絆を大切にしていきたいと思います。人間は決して一人では生きていけないと思います。誰か、身近な存在の人が必要だと思います。それは家族であり、仲間であります。一人のように見えていても、やはりその裏には仲間の存在があり、影で支えてくれているように思います。

我々高40回生は今年大同窓会の当番をさせていただくのですが、このすばらしい仲間と一緒に楽しみながら、最後の福岡支部総会の当番まで頑張ってまいりたいと思います。

最後になりましたが、北九州支部創立60周年、誠におめでとうございます。今後益々のご発展を心よりお祈り致します。



向町橋と竜王山